

# 談話会通信

才 39 号  
東京蜘蛛談話会

「夕されば野べの秋風身にしまて鶉なくむり深草の里」(藤原俊成)  
の里とはトリノフンダマシもほとんど即のうもくくり下わり、ジヨ  
ロウジモガそろそろ産卵に入ろうとしています。  
みなさんのところではいかがでしょうか。お便りをお待ちして  
おります。

## ○新入会員

井上房枝 〒226 横浜市、緑区、池辺町2947  
tel. 045-931-3121

## ○住所変更

蓮沼克己 〒362 上尾市大字上1322の1 (東京→埼玉へ)  
tel. 0487-74-3608

## ○住居表示変更

林秀幸 〒244 横浜市、戸塚区、平戸1-21-20

秋の採集会・観察会 10月17日(日)  
神武寺

(京浜急行 神武寺駅に午前10時 集合)

雨天 決行

責任者 松浦祐司さん  
〒211 川崎市 中原区 荻宿 612  
TEL 044-422-2842

・合同例会は、今年は 11月21日 または  
11月28日 に行う 予定です

クモのお便り

神奈川県 池田より

[ムラクモヒシガタグモの習性]

池田 博明

わが城内高校生物研究部は、去  
る8月1之日から4日まで、ま  
る神奈川県真鶴町岩ご合宿を  
した。その際、二晩にわた  
り、5個体のムラクモヒシガ  
タグモを観察してみました。今  
回の観察で判明したことは、  
次の通りです。

(1) 造網は日没～夜明けまで。  
つまり夜間活動性のクモである。

(2) 網の構造はX字型で、クモ  
はXの中心よりやや下に定位置  
で4脚と上の糸を交え、糸丸・  
オ3脚・オ2脚・オ1脚と下  
の糸を交えている。垂直。

(3) 造網場所は石垣で、下の糸  
は石に付着し、上の糸は、カン  
スゲやシタ等に付着している。

(4) 捕虫日の上を歩行して  
る虫が糸に掛かると、糸が  
て、つりあげられること  
による。

その他、造網の様子、補修等、  
いろいろの行動観察を  
しました。これらをよ  
くishidaiに報告する  
予定です。

ハX字型網や捕虫は、昨年の談話  
会の夏会館の時に、新海さんの  
説明をいただきました(1981年8月9日)  
赤城神社が、その時は、神社  
の持の下、真昼でした。今、  
おどろがされたのは、夜間造網  
で、15mぐらいに6〜7個体も  
造網しているという数の多さ、  
よく虫が掛かることなどです。

このクモや他のヒシガタグモに  
ついて知られていることがあ  
りましたら、ぜひとも教えて下さい。

東京の松本より沢の手を  
御紹介いただきました。

吉倉真光著  
「クモの不思議」  
岩波新書 黄版 197  
1-VI + 1-210 + 1-3,  
1982年7月20日発行  
¥380-

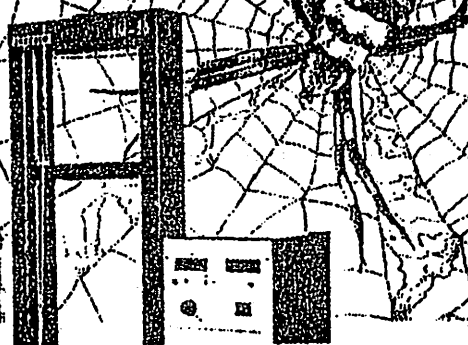
クモは人が歩行する上を歩行して  
る虫が糸に掛かると、糸が  
て、つりあげられること  
による。味気ない。若者のた  
まに、おどろがされたのは、  
夜間造網で、15mぐらいに  
6〜7個体も造網している  
という数の多さ、よく虫が  
掛かることなどです。



技術が自然を  
超えるか

自然の神秘をも計ることができる

昆虫の中にはとても神秘的な力を  
持っているものがあります。  
その中でも、クモは、種類、大き  
さ、住む場所によって糸の太さ、  
強さがその状況に対応できるとい  
う自然の力をそなえています。  
その自然の力をも計ることができ  
るインテスコは、各方面からの要  
望にも充分対応できます。



へ急避せせる何がをも、ているの  
でしようか。他にしこのよう  
種別関係のものがありますか。  
残念ながら、このハチを捕えて  
他のコクワグモの網にかけると、  
付近のジョウゴウグモやヒメグモ  
どの網にかけるとは失念し  
ました。

なお、同じサツキの上に張、て  
いた別個体の網にはハチは1匹も  
みられず、付近にあるいくつかの  
コクワグモの網にもハチはみられ  
ませんでした。この1個体の網に  
はハチがあつた、ていたのだ。

埼玉の鳥田さんよりいただきました。

・会計より 口座番号 横浜 0-1460 齋  
受領報告(敬称略)

- ・55年度 大村昌久
- ・56年度 齊藤博・福山研二・大村昌久・高橋登・町田龍一郎
- ・57年度 田中穂積・水沢正明・渡辺好章・加村隆英・青藤博  
高井桂子・目下節光代・貝飛憲治・吉田哉・末岡宏  
成合聡美・高野伸二・中平清・佐久間良三・高橋  
福山利二・大村昌久・井上房枝・加藤輝代子  
町田龍一郎
- ・58年度 高林桂子・末岡宏・小沢実樹・大村昌久

御寄付 齊藤博様 100円 池田博明様 100円  
高野伸二様 200円

会計についての御質問、御意見は会計まで

〒210

川崎市 川崎区 観音 1-14-15. 高橋 登

tel. 044-288-2921

(P.M. 9~10時の間にかけがいあり)

千葉の加藤 さしより

中平先生が、高知新聞(574) (9月30日)の「郷土の科学教室」で、

「アシダカグモ」についてご紹介した記事をいただきました。

本来、先生の記事を、ここにすべての世にのどろが、記事が大へしおおきく、途中どきるともどきまじりのど、かしたんに、私をくに説明せよといたまひ、お先生の記事のコピーが、事務局の方へ御連絡下さい。

先生の家に、毎晩電灯のヒモをるころに昏ると、いつも奇をみせるのがアシダカグモだそうぞる。このクモは、いつも同じ場所にいるようにぞる。先生の村(高知県、春野町井原)では、アシダカグモを、「タヌキグモ」といって、タヌキに伏せられて、いっぺん伏せられて、ものもよう言わぬようになる(口をまげるとる)者がいる、と恐れられてきたそうぞる。そうして、村の人たちは、みつけしで、このクモを殺してきたそうぞる。

クモを愛する中平先生は、アシダカグモは、「タヌキグモ」どころが、人が夜、やるといふ間にゴキブリを捕まえる陰徳者と力説して下さいます。

「おがあし殺しりやグメだよ  
ホラ、ゴキブリをつまがえているよ」  
(すずきがつひろ)

東京の小澤 さしより

八木沼先生が、朝日新聞「家庭欄」に、8月24、25、26の3日間により、「愛すべきクモ」ということで、ご紹介した記事をいただきました。

八木沼先生の記事も、たいへん大きくまた多量のど、5ページに8月25日の記事のめをのせせていた。8月24日、26日の記事については、私なりに説明させていただけます。なお、先生の記事のコピーが、事務局の方へ。

8月24日は、「虫捕り」ということで、先生は、オオヒメグモ・アザリカのナゲナフグモ、オーストラリアのウオツリグモ、ユカタヤマシログモ、アシダカグモの捕まの仕方が、実に興味深く、まねのやりやることがかかれています。

8月26日は、「母性愛」ということで、ハシリグモ・リリグモ・ミボグモ・カニグモ・コモリグモ・カバキコマチグモなどについて、紹介されています。26日のこの記事には、

「子グモに自分の体を食いつくす  
カバキコマチグモ」の写真が、おぼろげに生き身さえずりに見えるクモをみて、多くの読者の人も、おどろかか ことおいいます。  
(すずきがつひろ)





・事務局からの報告

・Kishidaia バックナンバー販売

( ) 内が値段です

No. 1 (160円)	No. 11 (120円)
2 (160)	12 (200)
3 (360)	13 (200)
4 (120)	14 (120)
5 (160)	15 (200)
6 (160)	16-17 (240)
7 (200)	18 (160)
8 (160)	19 (200)
9 (200)	20-21 (200)
10 (160)	22 (200)

No. 23-24 (240)	No. 40 (1100)
25 (160)	41 (1050)
26-28 (360)	42 (1230)
29-32 (840)	43 (600)
33 (160)	44 (750)
34 (200)	46 (800)
35 (200)	47 (950)
36 (200)	
37 (160)	必勝万は
38 (320)	事務局まで
39 (1120)	

東京蜘蛛談話会

No. 39  
1982年9月30日発行

本部 〒191 日野市 豊田 1-896 萱嶋泉 方  
tel. 0425-81-7128

事務局 〒272 市川市 菅野 3-1-6 ありむろ荘  
加藤 輝代子 方  
tel. 0473-25-4436

会計 〒210 川崎市 川崎区 観音 1-14-15  
高橋 澄方  
口座番号 横浜 0-1460 番  
tel. 044-288-2921

Kishidaia 事務局の方におおくり下さいませ。  
原稿受付

通信原稿 〒343-01 埼玉県 北葛飾郡 松伏町 松伏  
3.708  
鈴木 勝浩 方  
tel. 0489-91-2884